

沖縄県公安委員会定例会会議録（令和6年9月26日）

1 主な報告等

(1) 初任科短期課程第66期卒業式の挙行について

委員から、優秀な警察官を育てるためには時間がかかる。「石の上にも三年」ということわざにもあるように、物事の習熟には3年かかると言われている。教養や実習期間は成長を促す上でも大変重要であることから、周囲がきちんとフォローをしていただきたい。警察官に限らず現場に出ると、これまでに経験したことがないような身体的・精神的な負荷がかかるため、メンタル面のサポートにも配慮していただきたい旨の発言があった。

(2) 安全・安心なサイバー空間の実現に向けた取組について

委員から、今後も継続的にプロバイダ事業者等との協議会を開催するに当たっては、警察からの一方的な情報提供に終わることなく、事業者等による活発な議論が交わされて協議会が活性化するように検討してもらいたい旨の発言があった。

(3) 警察用船舶及び船舶警察職員の活動について

委員から、警察用船舶及び船舶警察職員が水難事故救助訓練や操船訓練等を行っていることを知り、頼もしく思った。また、限られた人員・装備でマリレジャー業の盛んな県内における海難事故や水難事故等にきちんと対応していることが分かった。今後も観光客等の増加による水難事故等の増加が懸念されることから、各種事故防止活動に努めていただきたい旨の発言があった。

(4) 自由民主党総裁選挙・地方演説会に伴う警護警備の実施結果について

委員から、複数の警護対象者を警護警備する厳しい環境であったにも関わらず、何事もなく警護警備を終えたことを評価する旨の発言があった。

(5) その他

警察本部から、昨今、全国的に匿名・流動型犯罪グループによる犯罪等が大きな問題となっている。当県においても、貧困家庭や若年人口が多いこと等が要因となり、少年等の規範意識の低下による匿名・流動型犯罪グループ予備軍の温床となることが懸念されている。また、観光から派生するマリレジャー業、飲食店業及び性風俗営業での雇用に伴い県外から県内への人・物・金の流入も少なくない。これまで以上に刑事部、組織犯罪対策部、生活安全部を始め各部門とも連携を強化して各種犯罪に対応してまいりたい旨の発言があった。

2 主な決裁等

(1) 警務部

- ・ 公安委員会あて苦情の受理について
- ・ 公安委員会あて苦情の調査結果について

- ・ 警察音楽隊定期演奏会について
- ・ 犯罪被害者支援を考える県民の集いについて
- ・ 裁決書の決裁について
- ・ 審査請求の受付について

(2) 生活安全部

- ・ 令和6年上半期のサイバー犯罪の検挙状況等について

(3) 交通部

- ・ 自動車運転免許の行政処分について
- ・ 弁明書の作成について

(4) 警備部

- ・ 警察職員の援助要求について